

# 護憲三派内閣の成立

貴族院を基礎として成立した清浦奎吾内閣は、立憲政友会のほんの一部の支持を受けることができたのみで、残りの政党勢力は、内閣打倒の護憲三派の提携を作った。総選挙で護憲三派が勝利した結果、元老は第一党になった憲政会の加藤高明を首相に推薦し、加藤は立憲政友会・革新倶楽部の協力を得て、連立内閣を組織した。

## ○ 3代の非政党内閣

### ● 普通選挙の検討と挫折

高橋是清<sup>これきよ</sup>内閣が短命に終わった後、非政党内閣が3代続いた。

<加藤友三郎内閣 | 1922年6月～1923年9月>

1922年、非政党内閣の<sup>(1)</sup> \_\_\_\_\_ 内閣が組織された。

⇒(1) 内閣は、普通選挙の導入を検討し始めたが、(1)の病死で中断された。



図1 加藤友三郎

<第2次山本権兵衛内閣 | 1923年9月～1924年1月>

1923年、非政党内閣の第2次<sup>(2)</sup> \_\_\_\_\_ 内閣が組織された。

⇒(2) 内閣は、普通選挙の導入の準備を進めていった。



図2 山本権兵衛

1923年9月1日、<sup>(3)</sup> \_\_\_\_\_

…関東地方を襲った大地震で、混乱に乗じた運動・犯罪への恐怖から事件誘発  
…<sup>(4)</sup> \_\_\_\_\_ : 無政府主義者<sup>(5)</sup> \_\_\_\_\_ と内縁の妻<sup>(6)</sup> \_\_\_\_\_ が、  
憲兵大尉<sup>(7)</sup> \_\_\_\_\_ に殺害された事件

…<sup>かめど</sup> 亀戸事件: 社会主義者10人が軍隊・警察に殺害された事件

…中国人・朝鮮人が被災の混乱下でおこなった犯罪について、  
事実・流言の混じった報道で、一部の官憲や自警団による殺傷事件が発生



図3 関東大震災

1923年、<sup>(8)</sup> \_\_\_\_\_

…無政府主義者<sup>(9)</sup> \_\_\_\_\_ が、<sup>ひろひと</sup> 裕仁親王(後の昭和天皇)を、  
虎の門付近で狙撃した事件

…(2) 内閣は責任をとって総辞職し、(9)は大逆罪で死刑



図4 難波大助

### ● 貴族院の内閣

<清浦奎吾内閣 | 1924年1月～1924年6月>

1924年、松方正義・西園寺公望ら元老は、政党と距離を置く者を首相に望み、  
枢密院の議長<sup>(10)</sup> \_\_\_\_\_ を選んだ。

⇒(10) は、陸相・海相を除く大臣を貴族院から選び、非政党内閣を組織した。

憲政会・立憲政友会・<sup>クラブ</sup> 革新倶楽部の護憲三派は、(10) 内閣を超然内閣と捉え、  
その打倒運動<sup>(11)</sup> \_\_\_\_\_ を始めた。

→内閣は、立憲政友会内の反高橋是清派が組織した政党である政友本党を味方にし、  
議会を解散して総選挙に臨んだ。

⇒総選挙が護憲三派の圧勝に終わり、内閣は総辞職した。



図5 清浦奎吾



図6 護憲三派の提携

## ○ 憲政の常道へ

### ● 護憲三派内閣の成立

<加藤高明内閣 | 1924年6月～1926年1月>

衆議院第一党<sup>(12)</sup> \_\_\_\_\_ の総裁<sup>(13)</sup> \_\_\_\_\_ が、3党の連立内閣を組織した。  
⇒内閣は、外相<sup>(14)</sup> \_\_\_\_\_ による協調外交、所謂<sup>(15)</sup> \_\_\_\_\_ を基本とした。



図7 加藤高明

(15) の下、内閣は国外に対して次の2つを実施・経験した。

- ①1925年、<sup>(16)</sup> \_\_\_\_\_ 調印、日ソ国交樹立  
…日本と社会主義国家ソヴィエト連邦（ソ連）との国交を樹立させた条約
- ②1925年、<sup>(17)</sup> \_\_\_\_\_  
…中国に建設された日本の紡績工場在華紡でのストライキを機に、  
反帝国主義運動が中国全土に広がったこと

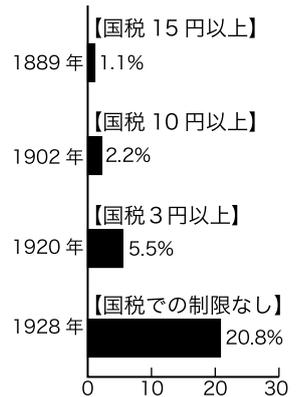


図8 選挙人率の推移  
\*男性・満25歳以上

内閣は、国内に対して次の2策を実施した。

- ①1925年、<sup>(18)</sup> \_\_\_\_\_ 公布  
…満<sup>(19)</sup> \_\_\_\_\_ 歳以上の男性に、納税額に関係なく衆議院議員の選挙権を与えた法令  
…結果、有権者が従前の4倍に増加
- ②1925年、<sup>(20)</sup> \_\_\_\_\_ 公布  
…国体（天皇制）の変革、私有財産の否認を目的とする結社を禁止した法令  
…目的は、日ソ国交樹立や普通選挙実施による社会主義の活発化抑制

◇第一次護憲運動から男子普通選挙制の成立までの風潮を大正デモクラシーと呼称

1925年、立憲政友会が、陸軍・長州閥の田中義一を総裁に迎え、  
また、他政党の革新倶楽部を吸収した。

⇒結果、護憲三派の提携が崩れ、(13) の病死で内閣は総辞職した。



図9 田中義一

### ● 憲政の常道

加藤高明内閣の成立から1932年の<sup>(21)</sup> \_\_\_\_\_ 内閣の崩壊まで、  
憲政会（後の立憲民政党）と立憲政友会の総裁が交代で政党内閣を組織した。  
⇒この8年間は、衆議院に議席を多くもつ政党が内閣を担当する慣例が守られ、  
その慣例を<sup>(22)</sup> \_\_\_\_\_ と呼ぶ。

#### 藩閥の変化と解体—伊藤博文・山県有朋

明治時代後半、政治参加に好意的な勢力は伊藤博文のもとに、反発する官僚・軍部は山県有朋のもとに集結した。かつての藩閥は、伊藤系・山県系に再編され、薩長土肥という地域色が薄まった。さらに明治末期、伊藤・山県は第一線から退き、元老として政治に介入、そのもとで伊藤系の西園寺公望・山県系の桂太郎が政権を担当した。1909年の伊藤の死以降、山県は元老の筆頭となり、自派の者を様々な組織に配置して人事権を握った。大正時代に入っても、山県は影響力をもった。しかし、1922年に山県が亡くなると、やがて山県系の藩閥は解体していった。

